

研究者氏名：宮澤 史明

調査・活動テーマ：webGIS を活用した高齢者にもやさしい手作りハザードマップの作成
「防災・減災の仕組みづくり」

調査・活動の目的

政府の地震調査委員会は、南海トラフ地震が発生する確率最大で80%と発表（2018年2月10日）をするが…しかし、専門家によるアンケート調査結果では、その情報は8割を超える人が内容を知らない事がわかりました。（2018年3月11日）

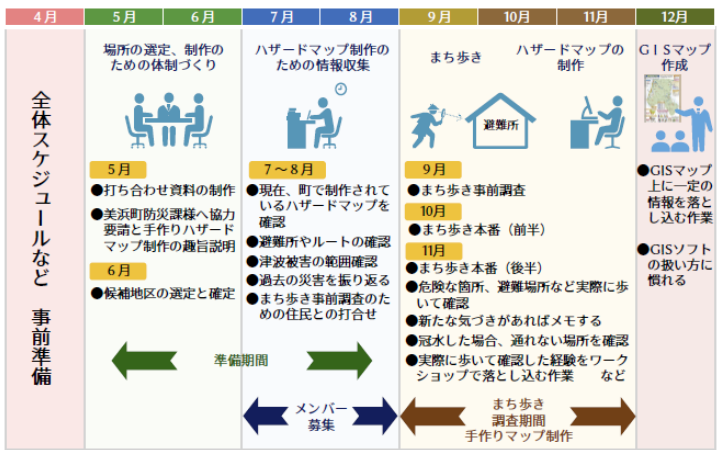
このような状況は「周知がされきれていない」こともあるが、特に「自分ごとで関心をもらえていない」ことの住民レベルまで落とし込めていないことが原因にあるのではないかと考えます。

そこで調査活動の目的は、ハザードマップ完成を最終目標において、その制作過程で災害に対する考え方（もし災害が起こったら自分や家族をどのように安全に守ることができるか）を見直す機会が出来ればと考えました。自分の地域の危険な箇所などを実際にまち歩きすることで、自分の身に直接危険が関わってくることへの関心を持ってもらえるのではないかと感じております。

また、自治体レベルでは把握出来ない地区レベルの詳細な情報などが、ハザードマップが今後の災害対策にお役に立てるのではないかと思います。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

2 ハザードマップ制作 タイム・スケジュール



3 事前準備

5月9日 日本福祉大学

- 研究テーマの趣旨説明
- 地域自主防災組織の関係者への協力要請



6月10日 日本福祉大学

- 研究テーマの趣旨説明
- 参加地区へのご協力をお願い



まち歩きの事前準備

8月28日 美浜町役場

- 美浜町防災課様へ進捗報告
- 資料の提供依頼など



8月28日 一色地区公会堂

- 一色地区の中心メンバーと打合せ
- 日本福祉大学災害ボランティアの学生さん



4

まち歩き下見

9月22日 一色公会堂

- まち歩き本番前の主要メンバーによる下見
- 出発地点とゴール地点の確認など



まち歩き本番 (2日前)

10月21日、11月18日 一色地区

- 2グループに分かれ、2日間かけて「まち歩き」
- マップに書き込み、まとめ(感想、気づき、今後の課題や改善点、意見 など)

5

手書きマップの作成作業



優れた効果・成果があがった点

効果という点では、特に参加者の気持ち(防災に関する興味や関心)が、参加前と参加後では大きく変わってきたことが、下記の「参加者様からの声」でわかりました。

最初にも記述した「調査・活動の目的」となる原因が「自分ごとで関心をもらえていない」ことの住民レベルまで落とし込めていないことへの解決策の一つになるのではと感じます。

6

まとめ

●参加者様からのご感想

- ・道が狭く家が建て込んでいます。古いブロック塀が目立ち、壊れると歩くことも困難な気がする。
- ・どこを通過して避難すればという想定も考えることができた。
- ・区民が共通の目的で問題をさぐることはよい。
- ・地震に対して危機感が増した。
- ・思ったより道路のほそ状態が悪いのに気が付いた。車椅子での走行は無理と思った。
- ・防災活動以外に(区民)隣人との交流に大変よろしい。
- ・地域の人と一緒に歩いて会話しながら、いざという時には助け合えるかなと思いました。
- ・いつもは車で広めの道を移動することが多かったけれど、まち歩きをして、ここはこの人の家とか、自身の時はこれは危険だなという場所がよく分かった。
- ・個人で行動する場合と老人を同行する場合、2通りの順路及びリヤカー等の乗り物の準備が必要。
- ・平地に住む者の意識は薄い。



市民研究員としての感想

災害に関する報道は各メディアから情報が流れてくるようになりましたが、それを「自分事」として捉えるレベルまではなかなかできていないのが現状だと思います。「手作りハザードマップ」制作を通して「自助」という観点で見れば、人は「自分事」で事を捉えれば、その事に興味を持ち、自ら情報を公開・収集をしていくと感じました。

委嘱期間終了後の今後の展望

今後も地域の防災・減災の意識を高める1つの手段として、まち歩きハザードマップ製作を続けられるように、まち歩きハザードマップ製作の「仕組みづくり」をもっと密なものにして完成度を上げていければと考えています。

自治体と連携できるような体制づくりや地域の防災・減災の意識を高める1つの手段としての確立ができるように進めていけたらと考えています。